

..... 編集後記

◆ 今月号の表紙と口絵の写真が、本文中のいずれの内容とも関係ないことに気づかれたのではないのでしょうか。なるべくは本文に関連した写真で表紙や口絵を飾るように心がけているのですが、たまには意のままにならないこともあるのです。というわけで、今回は表紙・口絵の補足説明から始めることにしましょう。

◆ 表紙と口絵の3ページまでは、石原舜三さんによるクスコとマチュピチュの写真です。共に貴重なインカの遺跡を数多く有する山岳都市で、ペルーを代表する観光地としても有名な場所です。本誌7月号の記事「ペルーのポーフィリー銅鉱床」取材の際(2000年)の撮影とこのことで、同地の最近の写真ということになります。

◆ 口絵の4ページ目は円上島のノーライトです。地質ニュースでは、1992年5・6月号(No.453・4)に日本の「地質鉱物天然記念物」を特集しました。その中で、濡木輝一さんは中国・四国地方を執筆され、円上島ノーライトも採扱されています。当時には未入手だった写真を追捕する形で大変に興味深い写真を今回お寄せいただき、ここに紹介できることになりました。

◆ さて、本文の巻頭は谷口道子さんによる「室戸海洋深層水」のお話です。海洋深層水を利用した各種製品は、医療・美容・健康食品などの分野で静かなブームを呼んでいます。深層水そのものについての知識は未だ一般的ではないようです。深層水研究の第一人者である谷口さんの分かりやすい解説

は、読者を海洋深層水への理解と親しみへと誘ってくれることでしょう。ここに掲載した内容は、去る7月20日に開催された地質標本館特別講演会の講演要旨を基に、編集委員会で図表などを加えて構成したものです。掲載にあたっては、谷口さんのご承認をいただいております。特別講演会の様子などについては今月号の「地質標本館だより」をお読みください。

◆ 「ライマン雑記」は数えて19回目になります。第1回の掲載は1990年3月号で、以来連載期間は10年を超えました。埋もれた資料を掘り起こし、整理・解説を行う作業は考古学、そして地質学にも一脈通じるところがあるように思えます。それだけに、筆者の副見恭子さんのご苦勞のほどが忍ばれます。ご投稿に深謝申し上げますと共に、益々のご健筆に期待いたしております。

◆ 「風送ダストプロジェクト」の紹介とその地球化学的研究(金井)もユニークな記事と言えるでしょう。春一番の突風に乗って訪れる「黄砂」は環境問題のひとつです。このような風送ダストにも地球科学の目が光る時代となり、地質調査総合センターの役割はいつその広がり重要性を増してゆくに違いありません。

黄砂の源は中国大陸、そして砂粒の元々は花崗岩。そのような中国の花崗岩の分化系列と鉱化作用に関する解説(石原ほか)を風送ダストと並べてみました。(遠藤祐二)

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二
副委員長：谷田部信郎
委員：磯部一洋・七山 太・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第565号	2001年	9月号
	定価¥785(本体価格¥748) 円実費		
2001年9月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2001 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ